

自立に向かう複式図画工作科の学習

—複式高学年 同単元同内容「自分の思いや感動を〇〇〇に」の実践から—

加藤 潔 己

1 はじめに

今回の学習指導要領の改訂で図画工作の学習は低、中、高学年という二学年のくくりで目標を示し弾力的に指導できることが、より明確にされている。本来、本校図画工作科では、図画工作の学習においては、一学年ずつの「学年の発達段階で子ども達の実態をとらえ」、それに応じた指導・支援を考えるとというとらえよりも、「個々の子ども達の実態に応じて」という考え方をより重視して学習指導をすすめてきている。この点でも、一学年ずつで区切って題材を構成しなくても、弾力的に二学年のくくりで題材を構成することで、より子ども達の実態に応じた指導計画を立てることができる。

本校複式学級の図画工作科カリキュラムも以上のような考え方を基本として、同単元同内容の題材を中心に構成している。そこでは、複式学級のよさ、例えば、異学年が同一教室にいることをいかした、学びを共有する場の設定、下学年に受け継がれる活動の保障、少人数制によるきめ細かな指導支援体制などを十分に生かせるようにカリキュラムづくりを基本としている。

一方で、平成9年度から、本校図画工作科のめざす子ども像の具現化に向け、「総合的な題材」の研究をすすめ、カリキュラムづくりを進めてきた。「総合的な題材」とは、それまでに学習してきたいろいろな材料経験、表現方法を駆使して取り組む題材である。扱う材料や表現方法、表現方法など、さまざまなことを、子ども達が自分で決めていく場が期待できる題材であり、「自ら必要な方法を考え、判断し、表現する子ども」の具現化のための中心題材である。

2 研究の方向

子ども達の自立に向けて、複式学級の特徴（よさ）と、図画工作科の「総合的な題材」のもつよさを生かした学習指導を求め、同単元（題材）同内容の題材を構想した。

まず、それぞれの、授業での指導・支援のポイントを絞り、両方がより有効にはたらく題材の要件を整理した。

複式学級の特徴（よさ）を「自立」
に生かす授業づくりのポイント

図画工作科の「自立」を育む授業づくりの
ポイント

見守り型支援
自ら学ぶ力の育成
学びを共有する場の設定

個々に応じた指導支援
自己決定を重視する学習構成
総合的な題材の設定

複式学級同単元（題材）同内容の総合的な題材

本年度は同単元同内容の総合的な題材を複式図工カリキュラムのなかに取り入れ、実践し、その有効性を探る方向で取り組んでいる。

図画工作科 複式高学年カリキュラム (抜粋)

月	A 年 度		B 年 度	
	題 材	指 導 内 容	題 材	指 導 内 容
4	伝える くふう ④	○校内の教室などのマークを、形の単純化・色調の工夫をして製作する。	私のよびかけ ⑥	○知らせたいこと、伝えたいことを身近な材料を用いて効果的に表す。
	光の国の動物たち ◎ ⑥	○アルミ線やビニルシートで空想の虫や動物をつくり、光の効果を生かして表現する。		ダンボールを使って -夢の町-
5				
10	自分の感動や 思いを○○○ に 総合的な題材	○自分のテーマにそって、修学旅行や帝釈交流を絵巻物やアルバムなどに表すことができるようにする。 5年 帝釈交流 6年 修学旅行	自分の感動や 思いを○○○ に 総合的な題材	○自分のテーマにそって、修学旅行や帝釈交流を絵巻物やアルバムなどに表すことができるようにする。 5年 帝釈交流 6年 修学旅行

3 実践の実際

本校の図画工作年間カリキュラムは「自立を育む」という研究課題の推進をめざしたものであり高学年では、この時期に「総合的に取り組める題材」を位置づけている。「総合的に取り組める題材」とは、既習の学習をいかして取り組み、学習の決定要素をできるだけ子どもたちが決める題材である。決定要素には、テーマ(題材)、表現形式、材料、技法、仲間、時間、空間などが考えられる。本題材「自分の感動や思いを○○○に」は、「総合的に取り組める題材」として設定したものである。テーマ「(帝釈交流や修学旅行の)自分の感動や思い」をどのように表現するかについては子ども達を選び、決めていくことができる。

題 材 「自分の感動や思いを○○○に」(5年 帝釈宿泊学習)(6年 修学旅行)

題材について

修学旅行(旅の学習)は、6年生の子ども達にとって、小学校生活のなかでも最も待ち遠しく、楽しい行事のひとつである。また卒業してからも一番の思い出になりうるものでもあると思われる。また、5年生は修学旅行とほぼ同時期にある、帝釈小学校との宿泊交流が最も楽しい行事であろう。両学年とも、修学旅行や帝釈交流学習のアルバムづくりは、一人ひとりの子ども達に自分なりの思いを持ち、ふくらませることができる題材であると考えられる。

旅の発見や感動をカメラに撮る活動は魅力的な活動であろう。アルバムそのものの製作は旅行後の学習で行うが、旅行前にはアルバム作りの構想を練ったり、旅行中には、一人用の使い切りのカ

メラで取材したり、資料を収集したりする活動になる。

指導目標

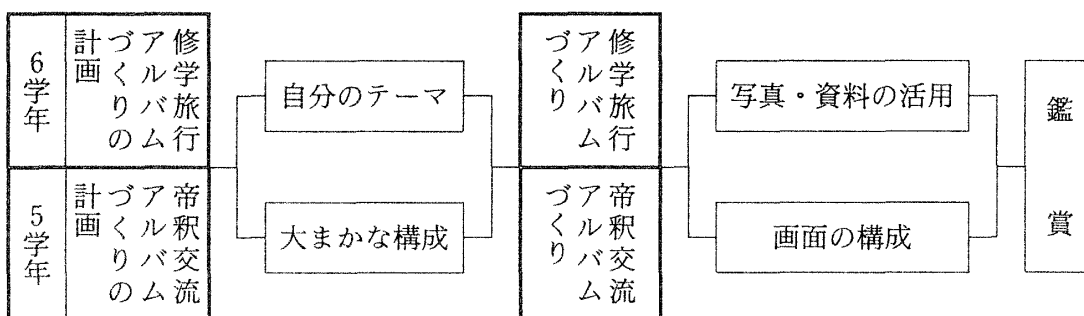
1. 自分なりの思いにそって、旅行アルバムを製作できるようにする。
2. 表したい感じが表れるように、画面の構成を考え、写真やパンフレットなどの資料を効果的に生かすことができるようにする。
3. 自分や友達の工夫・発想のよさに気づき互いに認め合う態度を養う。

指導内容と計画…………… 8時間（本時 第二次 第1時）

第一次（1）

第二次（6）

第三次（1）



授業設計の焦点

子ども達は旅行で取材・収集した資料として、写真、パンフレット、絵はがきなどをもとに、製作を進めていく。自分なりのテーマに応じて、資料から必要なものを選んだり、構成を練り直したりすることが必要になる。また表したい自分の感動や思いを表すのに、デフォルメしたり、取捨したりすることにも気づかせたい。本時では、作品例を鑑賞する場を設けて、絵巻物やアルバムの製作で自分のテーマや思いに応じて表す工夫について見通しを持つことができるようにしたい。



写真①

評価の観点

関心・意欲・態度	自分のテーマや思いをもち、アルバム製作をしようとしている。
発想や構想の能力	表したい思いに応じ、自分らしい表現の構想をしようとしている
創造的な技能	表したい思いのイメージを自分らしい技能をはたらかせて表現を工夫しようとしている。
鑑賞の能力	自分の表現を温め、その喜びを味わおうとしている。

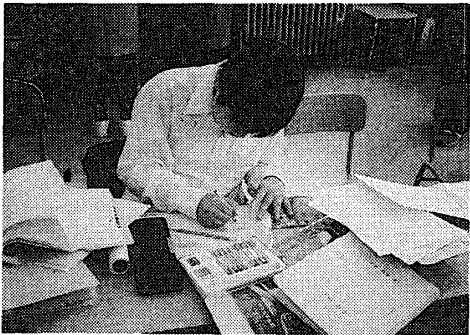
（学びを共有する場）

本時の目標

自分のテーマや思いに応じて、アルバムの製作に資料の活用や表す工夫をすることについて考えることができる。

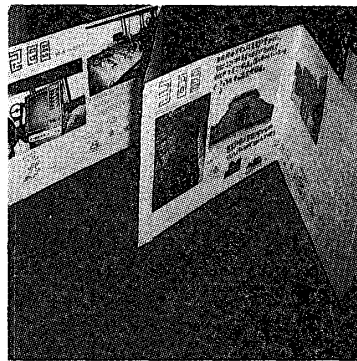
準備物 （教師） 作品例、実物投影機

学習の展開

学 習 活 動	指 導 ・ 支 援 活 動
<p>1 作品例を鑑賞し，テーマや思いに応じて工夫できることに気づく。</p> <p>2 アルバムの製作にとりかかる。</p>  <p>3 製作をふりかえる。</p> <p>4 後片づけをする。</p>	<p>1◎2つの作品例を比べて見せることにより，テーマや思いを表現するための工夫ができることに気づく場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻物形式，アルバム（和綴じ）形式 <p>2 自分のテーマに応じたアルバムの製作の見通しを持てるように，次の点に留意した支援の働きかけを個別にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真，パンフレット，絵はがき，しおりなどの資料の取捨選択 ・資料そのものの切り抜き・添付・資料をもとにした絵画表現の工夫 ・文章表現の工夫 ・レイアウトの工夫 <p>3◎アルバムとして自分の大切な思い出を残し，何年か後の自分に贈るつもりで取り組めるようにことばかけをする。</p> <p>4 資料を整理し，大切に片づけることと次時の予告をする。</p>

児童の表現形式

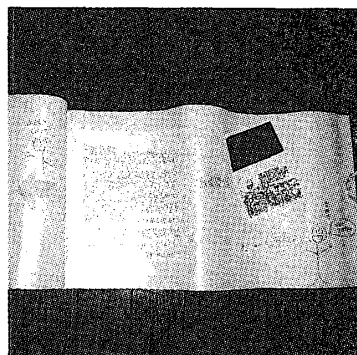
5年	表現形式
1	アルバム
2	絵 巻
3	絵 巻
4	和 綴 じ
5	和 綴 じ
6	和 綴 じ
6年	
1	和 綴 じ
2	絵 巻
3	和 綴 じ
4	和 綴 じ
5	和 綴 じ
6	アルバム
7	和 綴 じ
8	アコーディオン
9	和 綴 じ



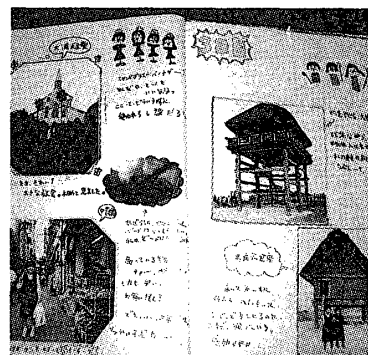
写真②



写真③



写真④



写真⑤

4 考察

(1) 学びの共有の場の設定による作品への工夫

第一次第1時の授業は、本題材の導入であり、製作の見通しを立て大まかな製作の計画を立てる授業である。表現形式の作品例（形式のサンプル）を鑑賞し、自分の思いに応じた表現形式を考えることがねらいでもある。作品サンプルとして提示したものは、絵巻物形式、和綴じ形式、アルバム形式である。子ども達も、この段階では、ほとんどが教師が提示したものを選んだ。それ以外に、アコーディオンのように折り畳んでいく形式を考えついた児童がいた。(写真②) その後、自分の製作の具体的な構想段階になって、学年を越えた情報の交流によって形式を変えた児童が見られた。

その際、上学年児童のアドバイスや、同学年でも進み具合の早い子ども達のアドバイスによっていろいろな表現の工夫が見られた。(写真③, ⑤)

(2) 既習の学習経験が生かされた工夫

帝釈交流の学習では、宿泊活動だけでなく、事前や事後にも手紙や絵はがきによる交流を行っている。5年生の子ども達は自分が送った手紙をパソコンで作成しており、フロッピーディスクにデータ保存している。これを出力、印刷したものを作品に取り入れている。(写真④)

5 おわりに

「総合的な題材」は、学習の決定要素をできるだけ子どもたちが決める題材であり、教師からの提案でスタートしてからは、子ども達自身で進めていくことを基本としており、自ら学ぶ力の育成をねらいとしている。また、既習の学習を総合的に生かして取り組むことができる題材である。

ところで、既習学習の積み重ねや生活体験は、学年差によって、当然違うわけであり、表現や作品に現れてくる。しかし、総合的な題材はその作品の出来映えの程度の差を問うものではない。一人ひとりのなかにある蓄積された材料経験や技法経験などが思いに応じて活用されれば良いと考えている。つまり5年生では5年生なりの、6年生では6年生なりの、いや、もっといえば、その子どもなりの思いの表現が大切であると考えます。

このような点で、総合的な題材を、複式図画工作のカリキュラムのなかに位置づけることはそのまま「自立」を育む学習において有効であると考えます。

参考文献

平成10年度 広島大学附属東雲小学校研究紀要 複式教育領域提案